

【滝川市】 1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末及びクラウドを活用して児童生徒自身が学びを自己調整し、個別最適かつ協働的に学ぶことで、主体的・対話的で深い学びを実現する。

2 GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の実現に向け、校内通信ネットワークの整備を令和2（2020）年度から進め、1人1台端末の整備とあわせて令和3（2021）年度から市内全小・中学校で共用開始した。

整備した1人1台端末及び校内通信ネットワークを活用した学びの実践については、個別最適な学び、及び協働的な学びを実現するためのソフトウェアを導入し、それらを有効に活用するための教員向け研修を実施した。その結果、授業のまとめの場面や家庭学習の教材としてソフトウェアの活用が進み、個別最適な学びが実現されている。

また、児童生徒が自分で調べる場面や自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でもソフトウェアの活用が進み、協働的な学びにつながっている。さらに、不登校児童生徒に対しては、リアルタイムで授業を配信し家庭や適用指導教室におけるオンライン授業の実践等、1人1台端末を活用した学びの保障についても取組が進んだ。

1人1台端末と校内通信ネットワークを活用した学びの実践に関する課題としては、学校間や教師間で差が生じているため、GIGA第2期では、児童生徒の学びの場面に応じた研修を充実させるとともに、各校からの優良事例を共有していくことで意識と技術の向上を図ってきた。

3 1人1台端末の利活用方策

学習者用端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用していく。

（1）「1人1台端末の積極的活用」

授業や令和6年度から導入したAIドリルを用いた家庭学習、学校・家庭間の連絡等、様々な場面での1人1台端末活用を進める。

（2）「個別最適・協働的な学びの充実」

端末を利活用した学習課題への取組により、理解度や学習進度に合わせた個別最適な学びを進める。

また、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図る。

（3）「学びの保障」

不登校児童生徒や外国籍の児童生徒、障がいのある児童生徒、特別な支援を要する児童生徒等に対して、その実態に応じて端末を活用した支援により、切れ目のない学びを保障していく。

4 個別最適・協働的な学びの充実

本市では、各教科で育成すべき資質・能力等を把握した上で、ICTを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成やこれまでできなかった学習活動を実施可能とするために、AIドリルや授業支援ソフト、デジタル教科書等、ソフトウェアの整備を行ってきた。

市内各校において、これらのソフトウェアを活用した授業改善が推進されたことにより、教員のICT

T活用指導力が向上するとともに、児童生徒が自ら課題を見つけ、情報を収集し、整理分類をしながら考えをまとめ解決するといった課題解決能力も着実に向上している。

今後は、個別最適な学びと協働的な学びをより一層充実させていくため、児童生徒がA Iドリルを用いて自分の理解度や進度に合わせ自己調整を働かせている授業、授業支援ソフトを用いて自分の考えを形成し合意形成を図る授業など、先進的な取組についての情報発信・研修会の実施など伴走型支援を積極的に行っていく。